

2025年8月

戦士の遺書

太平洋戦争に散った勇者たちの叫び

半藤一利

今年は終戦から80年、8月は終戦記念日を迎えます。本書には軍人として生きた証が残されています。良いも悪いも何にも抗えない、ただただ時代に翻弄されて生きた人たちがたくさんいるように思います。私は、広島や長崎を訪問したりしながら戦争について思いを巡らせていますが、書籍による資料も読みごたえがあります。

最大の激戦地硫黄島での戦いについてほんの少しだけ知ることができました。この島での戦いで米軍の損害は死傷者25,851名。上陸した海兵隊員の3人に1人が戦死または負傷したことになります。太平洋戦争で、米軍の反攻開始後その損害が日本軍を上まわったのは、この硫黄島の戦いだけ。栗林中将はある会議で次のように述べています。「本島は皇土の一部である。もし本島が敵に占領されることがあったとしたら、皇土決戦は成り立たない。したがって、もし本島への米軍の上陸がはじまったならば、大本営として陸・海・空の残存戦力を投入して支援し、本島への上陸は断じて食い止める、との約束をしている。」

いよいよ米軍の上陸が開始されることになるが、ついに1兵の救援も送ってこなかった大本営へ、栗林中将は決別の電文を送りその最後に「国のため重きつとめを果し得て 矢弾尽き果て散るぞ悲しき」という歌を書き添えている。

などなど・・・、本書には命を落とした方々のさまざまな言葉が残されています。